

## アリブンアビタリブ（前半）：少年期

:

明: 言者ムハンマドの4代目の者が、いかにイスラムを受け入れたかについて。

目: [事言者ムハンマド彼の教友たちの物](#)

より: アイシャステイシ

日 18 Mar 2013

集日 18 Mar 2013



アリブンアビタリブは言者ムハンマドの若き兄弟でした。年の兄弟を深く敬していたこの少年は、イスラムにおける高な士、クルアンのれた注者、そしてムスリム共同体の指者となりました。

アリはヒジュラ 600年にマッカに生を受けました。彼の父は、言者の叔父で、彼の支援者でもあったアブタリブでした。アリが幼いとき、大きながマッカの周地をい、多くの家庭では子供たちに食べさせることが出来なくなっていました。当、まだ言者ではなかったムハンマドは、幼い兄弟をかって世をすることを申し出ました。こうしてアリはムハンマドと彼の妻ハディジャによって育てられました。アリは年の兄弟を敬し、彼に同行し、彼の行を模しました。アリは成するに、ムハンマドの高いも踏し始めました<sup>1</sup>。

アリが10歳のとき、ムハンマドは全能なる神から最初の示を下されました。ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）が彼の家族に、彼が神の使徒としての使命を受けたことを打ち明けたとき、アリはその場にいました。承によると、アリはムハンマドとハディージャガーに礼しているのを目し、二人が何をしていたのかをねました。言者ムハンマドがイスラムの教えについて、彼の若き兄弟に明すると、アリはすぐさまそれを真として受け入れました。しかし、彼はイスラムに入信する前、彼の父がそれにどのような反を示すか考えました。翌朝、アリは唯一なる神であるアッラ以外に崇にするものはなく、ムハンマドがかれの使徒であることを言しました。アリは、イスラムを受け入れた最初の子供という名誉を有するのです。

一部のイスラム学者たちによれば、アリがイスラムに改宗したのは10よりも前のことであり、それゆえ々な物には、アリが青年としての第一の改宗者であるというものも出すことができます。しかしながら重要なことは、アリの年ではなく、彼が学ぶこと、そして神への正しい崇を望した、明晰な少年であったということです。多くの学者たちは、彼が言者ムハンマドの周にいた男女の内の一人であったことから、イスラム以前のアラブの宗教である多神教の式などには一度も参加しなかったことを指摘しています。アリは唯一なる真の神以外の何者にしても、一度もづいたことはなかったのです。

アリは少年期を、ムハンマドとハディージャの末娘であるファティマとごしました。数年、ムスリム共同体がマッカからマディナへと移住したとき、アリは言者ムハンマドのもとをれ、ファティマとの婚を申しました。

しかし、アリは自身がしく、婚としてファティマに差し出すものが何もないことに失望していました。言者ムハンマドは、彼が持っていた盾の却を提案しました。アリはウスマンブンアッファンに盾をり、嬉々として途につこうとしたところ、ウスマンは彼を呼び止めて盾を彼に返し、それを婚祝いとしてアリとファティマに呈したのです。ファティマとアリが婚したのは彼らが10代半ば、もしくは半のだったとなされており、彼らの婚式は、言者ムハンマド自身がり行なっています。

年の兄弟にどこでもついて行った少年は、高な若き士に成しました。神が次のを示したとき、言者ムハンマドは彼のを全食事に招待しました。「あなたの近者に警告なさい。」（クルアーン26: 214）彼らが食事をえたとき、言者は彼らにりかけ、彼のの内のが神の道に入るかとねましたが、10代前半の少年以外には、一人としてその呼びかけに答える勇を持った者はいませんでした。その少年こそがアリで、彼は嘲笑とりのなか、ひるまずに一人立ちあがり、言者ムハンマドの手助けをすることを表明したのです。将来的に直面することになる困な代においても、彼はしっかりと直立し、彼による神とその使徒への敬、そして勇敢さを示しけたのです。

マッカの不信仰者たちが言者ムハンマドを暗しようと企てたとき、彼とアブバクルは夜の中、マッカから去る必要が生じました。二人が暗い砂漠の中へと消えていったには、アリがムハンマドの寝床に入って身代わりとなり、暗者がやってくるのを待ったのです。アリは事生き延び、言者ムハンマドによってされた金品を、彼の代理としてその所有者へ返却しました。言者ムハンマドは彼の若き兄弟について、教友たちの中でも最も勇敢な者、信の置ける者、そして敬虔な者の一人としてみなしていました。をずして、アリも敬する兄弟の待つマディナへと移り住みました。

言者ムハンマドは、アリを大かわいがっていたため、々な好感を抱かせる、情のこもった名で彼を呼びました。その中でもアリが最もに入っていたのは、アブトラブ（砂埃の父）でした。あるアリがモスクの中庭で眠っていたとき、彼の背中は砂埃にまみれていました。言者ムハンマドは彼に近づき、彼の足元にアリを引り寄せ、背中の砂埃をい、笑いながら彼のことをアブトラブと呼んだのです。また、言者ムハンマドは彼のことをアリハイダラ（ライオン）とも呼びました。言者ムハンマドを慕う少年は、イスラムにおける有名な士となったのです。

---

## Footnotes:

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/2304>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。